

牛久：学校周辺に見る自然

第40号 牛久二小

2012年11月14日発行

＜ 秋の植物たち ～冬越しに備えて ②開花中の植物＞

10/19, 26の牛久二小4年2組との「校庭の秋の生き物観察」、今回は、いま開花中の植物たちです。



ピオトープ近くの草原に咲くセイタカアワダチソウ(左：キク科)と、花粉を食べるコアオハナムグリ(右上)、みつを吸うニホンミツバチ(右中)とツマグロヒョウモンのメス(右下)。

ピオトープの片すみに、セイタカアワダチソウが咲いていました。第35号でも紹介したように、かふんしょう花粉症の原因とされたこともありましたが、写真右のように、天気がよいといろいろな虫たちが花粉



やみつを求めてやってきます。そして、この花の花粉を運んでくれるのです。きかん盛んに咲いていますが、冬本番を迎えるまでに実を結び、こちらは風に飛ばされてしゅしさんぶ種子散布されます。花粉は虫たちが運ぶけれど、果実(種子)は綿毛がわたげあって風が運ぶのですね。

綿毛で風に飛ばされ・・・という、皆さんは左のタンポポを思い浮かべるでしょう。春だけでなく今も咲いているのは、外国産のセイヨウタンポポです。春だけでなく、秋まで咲き続けるセイヨウタンポポ(キク科)。果実は綿毛で風に運ばれる。



ビオトープ近くのフェンス前に咲く、コセンダングサ（左：キク科）。果実はトゲがあり、動物の毛皮などにひっついて運ばれる。 右はキバナコスモス（キク科）。プランターの植え替えなどで処分されたものから繁殖した？

ビオトープ近くのフェンス前には、「ひつつき」という方言もあるという^{ほうげん}コセンダングサ（キク科）が咲いていました。まだ果実はできていませんでしたが、果実にはトゲがあつて、皆さんの服だけでなく、動物の毛皮にもひっついて運ばれます。トゲがどのようにしているか、果実ができたらぜひ観察して下さい。なぜ、なかなか取れないのかが分かりますよ。近くには、^{かだん}キバナコスモス（キク科）も咲いていました。花壇やプランターなどでよく育てられますが、日当たりさえよければ元気に育つので、いろいろなところで野生化、^{きか}帰化しているのを見かけます。こうしてみると、やはり秋の花に



はキク科の仲間が多いですね。でも果実は、綿毛で飛んだり動物にひっついたり、いろいろです。

最後に、その他咲いていた植物を名前だけ。**イヌタデ**（左上：タデ科）、**アベリア**（左下：スイカズラ科）、**クワクサ**（右：クワ科：種子を自分ではじき飛ばす）。【理科支援員 宮内】